

## ティツィアーノとヴェネツィア派展

日仏国交樹立 150 周年記念

東京都美術館（上野公園）

2017.01.21～04.02



「ティツィアーノ・ヴェチェッリオ」(1488/1490～1576)は、盛期ルネサンスのイタリア人で、肖像、風景、古代神話、宗教などあらゆる絵画分野に卓越し、ヴェネツィア派で最も重要な画家の一人とされている。

画伯は、長命で絵画技法は年代とともに大きく変化しているが、筆使いと色彩感覚に特徴があり、生涯を

通じて独特な色彩感覚は変わることがなく、主に皇帝や教皇の肖像画を描き、イタリアルネサンスの芸術家や次世代以降の西洋絵画にも大きな影響を与えた。

「ヴェネツィア派」は、15世紀後半～16世紀にかけてヴェネツィア共和国とその周辺で活躍した美術の流派、絵画、彫刻、建築など様々な分野でその特徴が見受けられるが、一般的には、画面に色を使って構築し、流動的で詩的な雰囲気、人間感覚に直接訴えてかける効果を追求した“絵画の流派”を指す。

《ダナエ》 1553～54年 上部のポスター

ギリシャ神話を題材とした作品で、好色な神ゼウスは、黄金の雨に変身してアルゴスの王「アクリシオス」の娘「ダナエ」のもとに忍び込む、最もヴェネツィア的な裸体を描いている。

《フローラ》 1516～20年頃 油彩・カンヴァス



巨匠の初期の代表的な「単身像作品」で、ローマ神話における花の豊穡の女神＜フローラ＞に由来するものを題材として描いた作品である。

画伯は、この人気の高い衣服のはだけた美女という設定を考案して、流麗な筆致と官能的な色彩を特徴とする娼婦を描く際の定番とした。

モデルの表情は、素直で優しく落ち着いた優雅な身振りで、左手で服の裾をたぐりあげて、右手に持つ花々は、人間賛歌を高らかに謳ったルネサンス的思想が最も表現された一例として、現在も人々に深く愛され続けている。